

『 来し方 その後 』

2026/9/27 後半

藤井 千恵子

2009 年の後半に私は初めて AAFC の発表をしました。

その時は 説明もせず 「4 分 33 秒」の第一楽章を皆さんで演奏しようと言いました。

即皆さん無言。 33 秒後に 皆さんの演奏した楽器の種類をたずねました。各人はご自分の好きな楽器名を教えて下さいました。

USA の作曲家ジョン・ケージの作品を当時会員の皆さんは 題名だけで 即理解されたと言うことです。

さて今回は作曲者や内容を説明した後演奏しようと言ったのですが 反応は薄し。 よって実演無しとなりました。

私は昨年「バリトン」と言う擦弦(表側)と撥弦(裏側)の双方が演奏できる出来る弦楽器のオーナーになりました。

『17～18 世紀のヨーロッパ、特にオーストリアや南ドイツの宮廷で愛されたこの「幻の古楽器」は、構造の複雑さや調律・演奏の難しさから 19 世紀初頭に一度完全に廃れてしまいました。そのため、当時作られたオリジナルの現存例は主にヨーロッパの主要な博物館や美術館に貴重な文化財として保管されています』。

2025 年 5 月私はこの楽器の生音と姿に魅せられ

終演後即 演奏者に楽器の持主を訪ねたところ 製作者から借りているとの事。

運良く製作者はヴィオラ・ダ・ガンバを弾く人として知っていた人だったので すぐに欲しいと交渉。

所有権は有っても管理・メンテナンス・相応しい奏者への無料貸出しは製作者一任を条件に 晴れてオーナーになった次第。

バリトンの製作者井上樹さんは ヴィオラ・ダ・ガンバ工房 L'Arbre の主宰者。

新進気鋭で 早い・丁寧・美しい・良い音と世界でも定評がある青年。製作者はバリトンを 全部で 3 台作りたいという希望を持っていた。

この第一作ハイドン型「バリトン」製作は構想 8 年 2025 年の晩秋に完成。そして 2026 年 6 月に晴れて我が物になった次第。

この時のバリトン奏者は 作曲もするこれ又異色の青年音楽家で バリトンの研究家でもあるようです。

で彼が作曲するに当たって 相応しいバリトンがもう 1 台有ったらと 目下 2 台目を注文中。 2027 年中には完成すべく ボディーはバロック型ということなので ヘッドや装飾模様をデザイン中。

そしてヘッドを決めるに当たって あれこれ話をしている時 ヘッドが 3 面ある仏像の話になって それは興福寺の「阿修羅像」でしょということで これ又 3 台目のヘッドは「阿修羅」に決まり 装飾模様もそれとなく決まり。 あっという間にバリトンがあと 2 台が 作られることに....。

2 台持ちのバリトンオーナーとしては 世界にただ一人と言うことが 2028 年中には 3 台持ちの奇人になりそう。

『ハイドンはパトロンであるハプスブルク帝国屈指の名門貴族・エステルハーゲン家に 30 年にわたって楽長として務め 創作人生の大半を過ごし ニコラウス一世のために バリトンの曲を 160 以上 作曲しました』。

CD を聴く

●バリトン・2本のホルン・バスのための五重奏曲 二長調 Had. X:10

(現存する唯一のホルン2本による五重奏曲) アダージョ 5:31 アレグロ 3:53 メヌエット・ウン・ポコ・アレグレット 3:50

バリトン・トリオとニコラウスの館/トリオ・シュタットルマン

バリトン:坂本龍右 ヴィオラ:朝吹園子 ウィーン式コントラバス:菅間周子 ホルン:福川伸陽 藤田麻里絵 KCD
- 2095

●「モンセラートの朱い本」

『14世紀末にスペイン・バルセロナ郊外のモンセラート修道院に伝わる、中世の巡礼歌やダンス曲を集めた宗教文書の写本。表紙が朱色

・当時、修道院へ熱心に来る巡礼者たちが、聖なる場所で下品な世俗の歌を歌って騒がないよう、代わりに修道院内で歌い踊ってもよい聖歌』としてまとめられた10曲』。

1 おお輝くおとめよ 女3声アカペラ (1と7は同じ曲 乙女とはマリアのことを指す)

7 おお輝くおとめよ 古楽器演奏

12 死に向かってわれらは急ぐ

『14世紀末のスペイン・カタロニア地方に伝わる、中世ヨーロッパのとても有名な歌曲(ヴィルレ)

ラテン語で書かれた歌詞は、非常に厳格な悔い改めと宗教的警告の内容を、軽快なステップのダンスリズムに乗せて歌う。

歌詞のテーマ:

「死に向かって私たちは急いでいる。だから罪を犯すのをやめよう(Ad mortem festinamus peccare desistamus)」というリフレイン(折り返し)から始まります」。

・歌詞のテーマ: 「死に向かって私たちは急いでいる。だから罪を犯すのをやめよう(Ad mortem festinamus peccare desistamus)」というリフレイン(折り返し)から始まります。人生の短さ、現世の虚しさ、そして誰もが平等に迎える死と神の審判について警告する、宗教的で厳格な内容です」。

・音楽のギャップ: 歌詞は非常に重く恐ろしい「お説教」である一方、メロディは巡礼者が輪になって踊れるような、素朴で非常にダンスブルかつ力強いリズムを持っています」。

CD 中村会子 札幌中世音楽研究会自主製作

●お耳直しに For The Good Times

「Elvis country」CD 82876 77433-2

●AI 考

AI は文献等の比較考察は得意。既存のデータは取込み済みゆえ。

音楽・絵・写真・動画等は 始めに人間が言葉や文章で記憶させなければ 知識としては吸収できない。

では虐殺写真を 心地よいと万人が AI に教えたらどうなるのか。

AI に情報を大量に覚え込ませる判断基準は誰がするのか。

大量の不正知識を持った AI がその知識を持って判断を下していったら。

・『「悪意ではなく「真面目さ（暴走）」：AI が人間に敵意を持つというよりも、与えられた目標を達成するために手段を選ばず 人間がコントロールしきれなくなるスピードで自己改善やシステム拡張を行ってしまうことが恐れられている。

よって 10 年以内に人間は AI に殺される確率は 10%』の言葉が出てくるのだと思う。

AI が大量の知識を獲得していない分野では AI との問答は 無知な人との対話に等しい。

『 』はネット情報引用

以上